



再歩

～にぎわい再び～

ヘアサロン

テنز

Tens (旧名：おしゃれ館高橋) たかはしあいじ 高橋栄児さん

行政区：辻団地

新しい店の香りが残るヘアサロンTensで、店舗再開までのお話を伺いました。

震度7が2回という、今までに経験したことのない大きな地震が起き、余震が続く中、心配になって仕事場である実家に行ってみると、建物は既に倒壊寸前で、「仕事ができない。自分たちはどうなるのだろうか」と高橋さんは絶望したそうです。

家族の身の危険を感じたため、自宅から町総合体育館に避難しました。不便な生活を強いられつつも、「支援をしてくださったボランティアには大変感謝しています」と話し、「みんなが助け合って生活していたのを思い出します。改めて人のやさしさ・思いやりを痛感させられました。一生のご恩を忘れてはいけないと思います」と当時を振り返りました。

避難所生活で、多くの不満があってもおかしくはありませんが、何一つ口から出せない高橋さんの人となりがかかるコメントです。

地震から半月が経過した頃、奥さんはアルバイトを始め、自分も何か仕事をしなければと焦っていたそうです。

新しい仕事が決まりかけていた地震の2か月後に、商工会から惣領の復興屋台村への出店を打診されました。「突然光が差しきたみたいにつれしくて、

即答で『お願いします』と答えたことを覚えています」と高橋さんにはこやかに話します。

その後、話を受けてから1か月という短期間ながらも、なんとか準備を整え、屋台村のオープンに間に合わせます。初めての空間での仕事のため、戸惑いはあったものの、「このチャンスを生かさねば」と思っていた高橋さん。他の商業者14店舗とリスタートを切りました。

「今までは考えたことのない仕事ができる喜び」を実感しました。他業種の方の接客やサービスを目の当たりにして、多くのことを学びました」

また、同業者がすぐ隣にいる環境もとても刺激になったようで、接客や技術が向上したと実感しています。

屋台村の仮店舗を切り盛りすると同時に、本来の店舗の復旧にも取りかかりました。

復旧には多くの資金がかかるため、グループ補助金を申請し、大変な思いをしながらもなんとか制度を利用することができました。「苦労はしたものの、店舗の再建に非常に助かったと振り返ります。

また、店舗名も変更しました。Tensは、家族の名前の頭文字と、1から元の生活(10)に戻るよう励むという意味を込めて名付けられました。店

舗は、2017年10月の復興屋台村閉鎖から1か月半後にオープンし、順調にスタートを切りました。

かつての常連客が戻ってくる中、客からある変化を言われるようになってきました。

「接客が大きく変わったと言われました。震災前よりも話をするようになったようで、それがお客さまに好評です。これも屋台村での経験のおかげだと思います」と高橋さんは明るく話します。

さらにつれしいことに、Webドラマ「ともにおすすめ サロン屋台村」のモデルにもなりました。高橋さんにとってもうれしかったようで、出演した俳優さんのエピソードをたくさん話してもらいました(気になる人はお店で)。

そんな高橋さんが接客で特に気に掛けていることは、「被災し、未だ復旧を遂げないお客さまの心のケアをしたい」ということ。

散髪しているときだけでも辛いことを忘れてほしいという思いで接客をしています。

地震での経験を糧に、前を向き続ける高橋さんは、とても素敵な表情をしていました。

『仕事ができる喜び』

産業振興課 商工観光係
☎ 286-3277